

〈シリーズ企画 第1回〉
公立中高一貫校受検に向けて



公立中高一貫校、他県の状況は？

2025年から愛知県にも公立中高一貫校が設置されます。そこで、公立中高一貫校について、基本知識からご家庭での受検対策までをシリーズ企画として取り上げてみます。愛知県にはまだ設置されていないので、受検事情、適性検査問題などは首都圏のものを扱っていきます。

☑ 中高一貫教育の優れた点

東海地方の方はあまり意識されていないかもしれませんが、全国的には中高一貫教育の優れた点は広く知られています。簡単にまとめてみましょう。

- 中学校と高校の教育を一貫したカリキュラムマネジメントで学ぶので、ムダがなく、その分深く学べる。
- 高校受験のための勉強が必要でない分、部活・趣味・自分の関心事に思いっきり打ち込める。
- 学校が特色ある教育を実践できる一方で、生徒も個性を伸ばしやすい。
- 大学受験面でも先取りがしやすいので合格実績が上がる。

私立の中高一貫校はたくさんあったのですが公立には中高一貫校という性格の学校はありませんでした。公立中高一貫校が最初にできたのは1994年で、宮崎県の山間部に県立五ヶ瀬中学校高等学校として設置されました（現在は五ヶ瀬中等教育学校）。

県によっては、高校進学段階で過疎地からの子どもの流出を防ぐために郡部に設置されたケースも多かったのですが、一方で都市部にも多数つくられています。

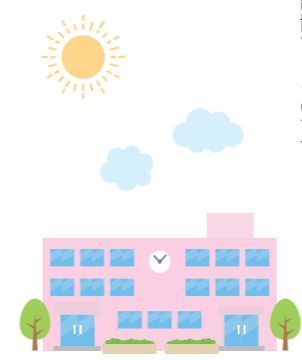
このように中高一貫教育には優れた面が多数あります。が、みな私立だったので、経済的に厳しい層にも中高一貫教育の門戸を広げるといった意図から公立中高一貫校がつけられるようになりまし。

☑ 東京には11校もある

では他県ではどのくらい設置されているのか見てみましょう。

東京都	都立10校	千代田区立1校
埼玉県	県立1校	さいたま市立2校 川口市立1校
千葉県	県立2校	千葉市立1校
神奈川県	県立2校	横浜市立2校 川崎市立1校
京都府	府立4校	京都市立1校
大阪府	府立1校	大阪市立2校
兵庫県	県立2校	
広島県	県立3校	広島市立1校 福山市立1校
福岡県	県立5校	

県(都)府立と市立があることにお気づきでしょうか。県(都)府でなくても、財政的に豊かな市なら設置できるのです。



☑ 公立中高一貫校がないのは6県のみ

右記の表では愛知県と同様に人口の多い都府県を取り上げましたが、実はほとんどの県に公立中高一貫校はありません。岐阜県、三重県にもないので、東海地方の方はあまり関心が高かったかもしれませんが、全国的にはあるのが普通で、ないのは東海地方の3県以外では富山県、鳥取県、島根県だけです。なんと茨城県には13校もあります。すべて県立です。ですから今後、岐阜県、三重県にも設置される可能性は大きいでしょう。

また、愛知県は目下予定されている学校はすべて県立ですが、先へ行って名古屋市長が誕生するかもしれません。

☑ 公立中高一貫校、3つのタイプ

公立中高一貫校には3つのタイプがあります。左の表以外に「連携型」というものがあり、特定の中学校と高校とで募集人員の一部について無試験で進学できるようになっています。特定の学校間なので、ここでは取り上げません。



タイプ	全国の校数	中学入試	高校入試	名称
併設型	103校	あり	あり	〇〇中学校、 〇〇高校附属
中等教育学校	34校	あり	なし	〇〇中等教育学校

いちばん大きな違いは、「併設型」が高校からの入学者がいること(中学入学者、高校入学者の比率は学校で異なる)、「中等教育学校」は高校入試がないので6年間同じメンバで学ぶことです。

他の都道府県では、「併設型」と「中等教育学校」の両方があることが普通ですが、ちなみに東京都は「併設型」が5校、「中等教育学校」が6校、愛知県で予定されている学校はすべて高校募集のほうが多い「併設型」であることが特徴です。

東京都では「併設型」のすべてで高校募集を2クラスにして、中学からの内進生を4クラスにしています。高校受験生からすると、

- 学習が先に進んでいる内進生に追いつくには大変。
- 部活でも人間関係ができてしまっているのではないかと。
- 募集人員が少ないので受けにくい(東京都立高校は推薦入試と一般入試があり、しかも募集人員が男女別なので少ない印象になる)。

以上の理由から低倍率の入試が続き、2021年度入試から徐々に併設型でも高校募集を閉じてきました。2022年度の白鷲高校附属を最後に東京都の公立中高一貫校は、すべて高校入試はしなくなりました。ただ校名は〇〇高校附属のままにしています。

愛知県が高校募集の人員を多くしているのは、東京都のこうした事例を参考にしているからだと思われます。第2回は「公立中高一貫校の入試についてお話ししましょう」。

安田 理氏 安田教育研究所 代表

受験情報のエキスパート

東京都出身。大手出版社にて雑誌の編集長を務めた後、教育情報プロジェクトを主宰、幅広く教育に関する調査・分析を行う。2002年、安田教育研究所を設立。教職員研修・講演・執筆・情報発信、セミナーの開催、コンサルティングなど幅広く活躍中。各種新聞・雑誌、ウェブサイトにもコラムを連載中。圧倒的な情報力と鋭い分析で、今後の愛知県の「公立中高一貫校」について考える『<シリーズ企画>公立中高一貫校受検に向けて』は、名進研のための書き下ろし。